

## 茨城統計九月號

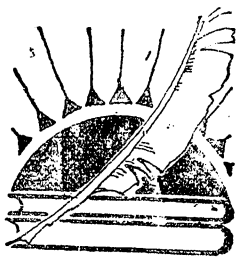
### 再び選舉肅正に就て

縣會議員選舉は目睫の間に迫つてゐる。我等は前號誌上において、特に國勢調査員に對し、國勢調査とこの選舉とが、偶々時を同うして行はるゝを以て、一層戒心して萬遺憾なきを期せらるゝやう注意を促すところあつた。

顧るに我國憲政布かれて既に五十年、あらゆる方面に著るしき進歩發達を告げ、科學の方面においても、産業の方面においても、その他文學に、美術に、工藝に、嶄然頭角を見はし、歐米諸國に勝るとも決して遜色がない。然るに唯一つ選舉の事のみは、十年一日の如しといふよりは寧ろ年毎に益々退歩の傾向を示し、醜惡聞くに堪へざるものすらあり、今にして之を救はなかつたならば、或ひは憲政の發達を阻むに至るやも計り難く、由々敷き問題として憂慮すること久しく、遂に選舉肅正運動となつて現はれた次第である。見よ今や縣議選舉を目前に、縣下官民總動員の形となつて、選舉戦線以上に世の注目を惹いてゐるではないか。

この現象を喜ぶべしとなすか、否、否、否、我等は最も悲むべき一事として、能ふべくんば、今度限りに斯る運動はその必要なきものとして返上してしまへたいのである。一体、選舉なるものは、自分が適材なりと認める候補者に、自分の持てる貴い一票を投ずればそれでいゝのだ、極めて簡單明瞭、そこに蟠りなどあるべき筈のものでない。後藤内相の訓示の如く、國民自ら戒めて法に觸るゝもの一人もなからしめたならば肅正の目的は達せられたわけである、文明國に似氣なき斯る運動は直ちに其跡を絶つてあらう。否、直ちにそのあとを絶たしめたいのである。

縣下四千の統計調査員諸君！何事にもの先きに立つ諸君である。範を郷黨に垂るゝ諸君である。この時、この際、選舉界廓正の急先鋒となつて、嚴正公明なる選舉を行ひ、更に諸君が統計思想普及のために費したる彼の熱意と努力とを以て、郷人を指導し、統計調査員の名に恥ぢざるの行動に出でられんことを、我等熱望して已まない。



## 農村工業の奨励に就て

地方農林主事 泉

茂

農村工業化の必要が唱へられたのは既に十數年以前の事で、東京帝大の那須教授や理化學研究所長の大河内子爵等は、大正十一年頃から農村工業化の必要を叫んで居つたのである。

當時此の問題は一つの理想として世間一般から考へられ、政府に於ても、地方に於ても、進んで農村工業化を助成する施設は講ぜなかつたのである。

然るに一昨年頃から農林省は農村經濟更生の立場から農村工業奨励の必要を唱へ、又一面大河内子爵等の主唱に依つて社團法人農村工業協會が設立され、農村工業の調査指導に乗出す事となつたので、其れ以來農村工業問題は各方面から關心を持たれる様になつた。

斯くて農林省は愈々本年度から相當の經費を以て農村工業の奨励に當る事となり、各府縣も農林省の方針に基き奨励費を計上して夫々其の縣の實情に適した農村工業の奨励指導に努むる事となつて、十余年前から論議された此の問題も具体化し愈々奨励の第一歩を踏み出す事となつたのである。

此の機會に農林省の方針に基き縣が奨励せんとする農村工業とは如何なるものか、又如何なる方法に依つて奨励

するか、其の概要を述べて見たいと思ふ。

農村工業化を唱へる識者の意見は大体二つに分れてゐる。其の一つは工業資本家の唱ふるもので、其の主張は農村の更生といふよりも工業それ自体の更生の爲に工場都會集中を捨て、工場の地方分散をなす必要があるといふのである。即今後益々工業製品の國內需要を喚起し、更に關稅の障壁を乗越へて海外に販路の擴張を圖るには更に一層生産費を切り下げ安價に商品を作り出さねばならぬ。それには地代の低廉な農村に工場を建て農村に於ける低廉な勞力を利用して生産費の低下を圖るが必要であるといふのであつて、其の目的とする處は工業の農村化に依つて工場の經營を有利に導かうとするにあるのである。

○

農村の經濟更生といふ見地から其の必要を唱ふる者は、農村は古來自給自足の形で手工業的の作業を相當に營み來つたのであるが、漸次工業的部分を都市工業に奪はれた爲に農家經營が單一化し其の結果農家の經濟は單純な弾力性に乏しいものとなり收支の不均衡を來すに至つたのであるから、此の奪はれた工業を新しい姿で農村に引戻すか、又は新しい適當な工業を創設して單純な農家經濟、農村産業組織を複雑合理化する要がある、即農村の餘剩勞力、過剩勞力を利用して得る又各種の原料を活用し得る工業を農村産業の中に織込んで行くことは農村將來の發展上重要な事柄であると主張してゐるのである。

農林省及縣の農村工業奨励の方針は、後者の主張と大体同一のものであつて工業資本家の工場を農村に誘致する爲の奨励では無い。農業者の共同の力に依つて爲せば充分行ふ見込のある農村工業は出來得る限り農村に於て行ふ様に奨励指導し都市工業家の農村進出は阻止せなければならぬと迄農林省は唱へてゐる。然らば農村工業は誰に經營させるかといふに農業者の共同團體である産業組合、漁村の場合は漁業組合を經營主体とする事に定めてある。

而して産業組合にしても一ヶ町村區域のもので無く數ヶ町村或は一郡内の産業組合の聯合會をして工場を經營させる事となつてゐる、特殊の農村工業で特別の産業組合を必要とする場合は農村工業を目的とする特殊の産業組合を組織して之が工場經營に當る事は差支無く又一ヶ村に限られた物産を加工する工業であれば一ヶ村區域の組合で經營するも差支無い、要するに經營主体の區域を數ヶ村以上となす事を原則とした理由は相當基礎のある組合が工場經營に當る事で無ければ工場の設備も不充分なるを免れず、製造能率にも影響を來し又多量生産に依つて製品の販賣を有利に導く事も望めず工業の經營をして堅實ならしむる事が困難と認められたからである。

次に農村工業の種類はどの程度のもを指導獎勵の対象となすかといふに、農林水産物又は其の加工品を原料とする工業を主眼としてゐる。農山漁家の生産物を加工する事は地元にて原料を豊富に蒐集する事が出来るのみならず間接には農林水産物の生産過剩の場合或は生産最盛期のものを加工する事に依つて價格の維持釣上げにも役立つからである。

農林水産物に非ざる物を原料とする雑品の製作、器具機械等の簡易なる部分品等の製作も獎勵の範圍ではあるが先づ以て農山漁家の生産物を加工する工業を興す事が適當と思はれる。更に農村工業は農村に於ける餘剩勞力及過剩人口を出來得る限り活用し得て農村の經濟緩和に役立つ事を目的としてゐるのであるから獎勵すべき農村工業は餘剩勞力及過剩人口を可成多く利用消化し得るものを優先的に獎勵する方針を採つてゐる、而して縣は工場建設及工場内に据付くべき器具機械其の他の工作物設備費に對し又臨時指導技術者招聘並に製品の販賣に要する費用に對して大体半額の助成をなす事となつてゐる。次に本縣に於ては如何なる種類の物が農村工業として實行性ありやと云ふ事を考へて見る必要があるが其の種類選擇に就ては原料蒐集の難易及製品の販賣關係に付て充分調査研究を

必要とするは勿論地方の産業狀態等に良く適合したものを選ばなければ其の工業に依つて地方農村の更生に役立つ事なるは困難であるから各方面から周到な調査をし選定せなければならぬ。

農村工業は極めて新しい獎勵事業であり従つて茲に本縣に適當と認むる種類を掲げ得る迄に調査も出來て居らぬが單に工業原料の生産方面から觀て今後更に調査を重ねる價值ありと認めらるゝ數種類のものを左に擧げて見よう

### 一、甘、澱、粉、製、造

鹿島、東茨城、那珂三郡の甘諸作付は五千町歩あり縣下總作付反別の約半を占めてゐる、昭和八年度前記三郡の甘諸收穫高は一五、八一六、二〇〇貫價額九四八、九〇二圓であるが其の生産量の約三分の一の五百五十萬貫即五十萬俵は澱粉加工用の鹿兒島種である其の中煮食用として東北地方に移出されるもの約十萬俵（東北地方には紅赤種が主として出る）管内で澱粉に加工されるもの二十五萬俵と推算し残る十五萬俵は千葉縣に移出され澱粉に製造されてゐる、千葉縣に移出するには一俵に付五、六錢の運賃と他に仲買問屋の手數料が掛るから一俵約十錢（一俵の甘諸の價格は七〇錢乃至八五錢）内外を千葉縣の加工業者は余分に要する譯になり地元にて共同加工すれば此の費用を出さずに済む事となるのみならず收穫最盛期に金融の關係から一般に賣急ぎをなす爲踏買ひされるといふ弊害も除去されることと思ふ

### 二、茶、種、搾、油

茶種の栽培は近年漸次増加して昭和八年の作付反別は一、六八二町、收穫高二〇、七一石、價額三三四、六五二圓なるも本縣は畑地が廣く又乾田の裏作として栽培を擴張し得る地方も尠く無く又縣及農會では縣下の茶種栽培反別を一萬町歩に擴張せしむる方針で獎勵中であるから將來益々生産は増加するものと思ふ、現在縣内産の茶種の大半は縣内者專業の工場で搾油されてゐるが尙七、八千石は東京、滋賀等に移出されてゐる状態であるから主産地方に於ては此の共同搾油は一つの農村工業として考究に値するものと思ふ。

三、蕎麥粉製造 久慈郡は古來葉煙草の名産地で蕎麥は其の跡作として適當な作物である處から千町歩以上の作付があり其の産額は一萬三千余石八萬五千余圓に達してゐる、この蕎麥は地元の大田町で四千石内外は製粉に供されてゐるが大半は原料の儘東京、神奈川等に移出されるのであるから地元にて製粉して販賣する事にすれば一つの農村工業が生れる譯である。

四、製茶 本縣は茶樹の栽培に適し各郡に茶は生産せられ最近の茶樹の栽培反別は一、二四五町歩二十二萬貫六十五萬圓の産額を挙げ其の中十萬貫内外を東京初の關東地方に移出してゐる、然し乍ら本縣の製茶方法は大部分手工に依るものであるが社會の變遷に従ひ漸次機械應用に俟たねば有利な經營は困難な實情にあるのであるから主産地方では機械製茶工場を設置して生産費の低減を圖り需要の増進に努める事が必要と思ふ。

五、其他 前記の外に新治郡地方は栗の栽培が著しく増加し現在でも七、八萬貫を東京に移出する外毎年四千箱内外を北米に輸出する状況であるが新植反別が多いから數年後には現在の二倍以上の生産に達する事と思ふ、従て將來とも生果販賣のみで進んでは價格の下落する事明かであるから今日から栗の加工(罐詰其他)を研究し新規の需要を喚起するに努むる必要があると思ふ、又全地方は筍の生産も多く此の罐詰製造も適當な農村工業と思はれる、又鹿島郡の南部を始め縣下各地に蔬菜の産地があるが蔬菜類は近年各縣競ふて生産獎勵をなす結果生産最盛期には出廻り過剰を來し取引價格暴落して運賃荷造費にもならぬ事が屢ある。斯る際に備ふる手段として漬物とするか鹽藏するか又は適當に加工し販賣する事も大いに考へなければならぬ。

其他水産方面では漁獲高の最も多い鰯の加工及霞ヶ浦、北浦産の淡水魚の加工等は研究を要すべきものであり、又畜産方面では豚の生産が全國でも有數の縣であるから豚肉加工も經營方法如何に依つて有望な農村工業となり得

ると思ふ。

要するに本縣は京濱の大都市に近接する關係から從來農林水産物は原料の儘移出せられ、加工事業の發達が極めて後れてゐる、現在農業者の共同團體で加工事業を營むは鹿島郡柳川産業組合の甘藷澱粉製造、結城郡結城町豚肉加工販、購、利組合のハム、ベーコン等の豚肉加工、行方郡秋津村青柳副業品加工農事實行組合の苺ジャム製造と組合員の消費を目的に製粉製麵を行ふ組合が十數ヶ所あるに過ぎず其の他の事業者の工場も他府縣に比し極めて尠ない。

今後は産業組合等に於て縣の獎勵と相俟つて大いに調査研究を重ね適切な農村工業を興して地方農村の更生に寄與される事を切望して竭まぬ。

## 國勢調査宣傳歌

—(男 富 本 根)—

一 ットヤ人々忘るな國勢の〜  
 調査は十月一日よ〜  
 ニ ットヤ兩親兄弟雇人〜  
 客人までも調査する〜  
 ミ ットヤ皆一同に申告し〜  
 洩れては我身の恥となる〜  
 四 ットヤ調べる事項は名に年に〜  
 配偶關係常住地〜  
 五 ットヤ五年巡りの此の調べ〜  
 國勢基本を知る爲めに〜

六 ットヤ無駄な手数は掛けぬ様〜  
 準備調査を完全に〜  
 セ ットヤ何事置いても一日は〜  
 旅行參詣見合せよ〜  
 ハ ットヤ宿屋料理屋座敷〜  
 申告義務が二つある〜  
 九 ットヤ國の爲だよ正確に〜  
 申告しませう我先に〜  
 ナ ットヤ統計數字の正確は〜  
 國家の基礎を固めさせ〜

な 摯 眞 直 卒

# 調査員の體驗發表會

涼味萬斛の高濱小學校で

石岡部會の催ほし

貴いこの叫び！

第三回石岡部會統計調査員會は七月十日午前九時半から高濱町小學校講堂に開かれ、

石岡九名、高濱十四名、志筑九名、新治七名、玉川四名、田余八名、關川七名、三村十名、計六十八名、郡農會主任農産物検査所高濱主任岡野技手等出席  
縣から川崎統計課長、郡擔任虎口屬臨席、地元高濱町長川島勝太郎氏の開辭について川崎課長は

近時本縣の統計が著るしき改善進歩をみたのは、平素統計の實際に携はる調査員諸君の功勞による處甚大なるものあり、衷心感謝するに吝ならざるものでありますが、尙ほ完璧を誇るといふに至らない、本日お集りのこの部會内において八ヶヶ村の内、未だ完全の域に達せざるものが三ヶ

村がある、寔に遺憾とするところで部會の諸君は宜しく歩調を揃へ、相扶け相いたはり、舉つて優良な成績を擧げらるゝやう部會の名譽にかけて一層努力せられ、將に來らんとする米の調査におきましては勿論、その他の調査にありても共同一致、萬遺算なきを期し、優秀なる成績を目標に奮闘せられたい

と激励の挨拶を述べ、統計思想の普及徹底その他調査員會議の要項について虎口屬の説明後、二三の質疑應答あり、この日の呼物となつてゐる統計調査員の體驗發表會に移つた。  
處は高濱隨一の高臺、名も床しき戀瀬川の流れば、萌ゆる夏草の間に帯の如く光つてゐる、霞ヶ浦の入江は墨繪の如く靜かにほけて、ポプラの点描漁る小舟、詩であり、繪である。

この緑の水郷をなで、吹きあける涼味を滿喫しながら我等

の調査員諸君は、汗みどろな貴い體驗を語るのである。

高濱町 調査員 高野 廣君

虎口屬司會のもとに指招がれて壇上に現はれたのは高濱町調査員高野廣君、紺ガサリの單衣に兵古帯を無雜作に巻いて『皆さん、私は當町第三區擔當の高野です、こんな立派な席へなど立つガラではないのですが、折角主任からの勧めもありませんので責めふさぎに出しやばつた次第です』  
と、飾りなき農民辯を丸出しに、力強く思ひのまゝを、叩きつけるやうに吐き出す。

高野 我々のこの集りは昭和八年八月以前は各町村箇々に行はれたものですがかうして各町村の調査員が、種々なる體驗を持ち寄つて一堂に會し、研究し訓練するところに効果があるといふので交通並に設備の關係等を考慮し、高濱及び石岡の二ヶ所に限定的に開催さ

れてゐます、然し一步を進めて之を町村毎に循環的に開いてはどうでせうかその都度縣からも御出張をいたさきますれば如何に出億劫な方でも出席するその土地々々の町村長さんも顔を出す横着をきめて田畑へ出てしまふやうな調査員であつても、他町村の調査員諸君が田圃道に自轉車を飛ばして會場へ急ぐ熱心さを見れば『遠い處からあゝ横着をしては皆の者に相濟まぬ』と反省して大急ぎで顔を出すといふことにもなりません。町村長さんも會へ出て調査員の熱誠ぶりを見ますれば、たとへ如何に理解のない方であつても、必ず目醒めて豫算編成期にでもなれば調査員の手當や何か迄、あれでは足りないとか何とか考慮することになりはしませんか

更にさうすることによつて町村民にも統計に關心を持たせ、會議要項第一にあげられた統計思想の普及徹底といふ点からも亦最も効果的であるゆゑを縷述し、少し位の交通の不便や設備の不完全は忍んでも各町村循環的に部會を開催するやうされたいと力説し、一轉して實務上の希望に及び  
高野 統計は如何に立派でも正確でも期限内に報告が出来なければ何にもならない、處がこの期限を間違へないといふことは我々の最も心を痛めるところで、私共は決して晝日中、家の中にゴロ／＼してゐるわけではない、朝から晩まで弛まず働いてゐるのですから報告日限は手ツ取り早くスグわかるやうにしておかないと思はぬ不覺をとるころとがあります、汽車の時間表のやうに誰にも目につくやうな表に作つて見易い場所へかけておくやうにしてはどう

でせうか

更に君は原簿について作付反別及養蠶、家禽、果實等ばかりでなく桑、茶、其の他に於ても各種別に作成するが實際上便利なるを説き、轉じて『茨城統計』第二號の相談欄を引用して米生産統計調査補助表様式の横式記載の便宜にして時代的なるを語り、最後に統計は共同一致、連帯責任の觀念から我々は常に主任を盟主と仰ぎ、主任の命を休して一致協力、足らざるものは扶け、及ばざるは導き和氣霽々のうちに理想の目標に進み行かねばならぬと結んで、新治村調査員前川初太郎君とかはつた。

新治村 前川初太郎君 調査員

柔和な顔に長い髻を垂れて言葉もやさしく『調査員としては尋常一年生と見てよい私の失敗談を二つ三つ……』と語り出すところ、正に道を説く神の使ひの如き感じがする。

前川 私は先頃降雹の時の被害調査につ

を訪ねるとお茶を出したり、大福餅を出したり大變結構なもてなしなので、頃合ひをみて『時にけふは米の生産調査に來ましたが』……と口を切ると言ひもをばせホ——何だとシヤラクせい生産高を丁度に出して何になる、まだ税金でもあける氣か、國のためだのナンのつてお前等はカラ駄目だ、小癪なことをするな——と劔もホロロの挨拶には全く痛み入つてしまひました、しかしこんなことで懲りてしまつては折角十年の苦心が水泡に歸するわけですから、かうなつたら魂くらべです、何時かは必ず意に従はせようと、彼れが邪なる長夜の夢から醒めるのを密かに待つてゐます。

と、肩をそびやかして意氣益々軒昂『手は十能、足はあひるに似てをれど、國のためなら何もかまはん』など、一休の狂歌を高らかに詠みあげたりして喝采を博した。

いて大變心苦しい思ひをしました、雹の被害は、その翌日あたりでは、たとへ雹に當つても麥の穂などは少し頸をかした位で此程度ならと思はれる位ですが、一日たち二日たちするうちに少しでも雹に當つたものは皆白ぼけてしまふのです、さういふわけで被害調査も降雹があつた、そらスグにとい

はれて調べてみますと最初は一割乃至二割の損害位に思つたのが四割も五割もの減となつて、意外の開きが生ずるのです、こんなことから、やゝもすれば調査員の調査は疎漏だの杜撰だのと非難を受けるのではありますまいか、かうした調査は被害の直後より數日を経たからの方が正確なものが得られると思ひます、自分の調査が國策上に重大な影響があることを考へますと、自分ながら自分のやつた調査を衷心恐れた次第であります

とて、降雹によつて味はつた貴い經驗を披露し、次いで栗の調査につき實際上、

志筑村 市川和泉君 調査員

失禮かは知らぬが調査員には珍らしい程スマートな洋服姿の青年、主任のよき指導により逐次向上しつゝある村の統計を冒頭に語つて麥及び米の調査報告期日につき希望を述べ

大小麥の實收高報告は七月十五日限りとなつてゐますが、この季節は養蠶とカチ合ふために自然手遅れ勝ちで、私共の方では今尙ほ調製が出來ずにあります、小麥などは田圃に残つてをるものすらあるやうな次第で、定めの日などにはトテも正確な實收高は得られません、米の實收も同様で十二月一日に正確な報告の出來ますのは一割か二割位のものかと思はれます、斯様な次第ですから期日通り報告をするとしませれば豫想によるの外ありません、會て縣會の問題になつたのもツマリさうした結果からではありませんまいか、ゆゑに飽迄正確なものにするには今少し

石を以てすることは甚だ不便だから貫に改めるやうにはならぬものかと希望して降壇

石岡町 福田安義君 調査員

代つて元氣な姿を演壇に見せる、先づ後ろの黒板に、石岡から高濱への略圖を書いてサテ曰く

私は御覽の如く高濱通りに沿つた石岡第十一區の調査員です、受持戸數百四十一、その内純農が五十一戸で、あとは半商半農、少々不良分子も交つてゐます、私が調査員を拜命してから既に十年になりますが、受持區内に統計調査員をゲヂ／＼のやうに嫌う家が一軒ある、地位もあり資産もある人ですが煮ても焼いても喰へない人物で、私は何とかしてこの人を自分の意に従はせたい、ツマリこの雜物に統計の眞價をのみ込ませたいと十年苦心を續けてをります、昨年の米調査の時も、今度こそ説き伏せてやらうと考へて、その家

報告期日を遅らして貰ふより外ありません、我々は如何なる事情がありましても偽裝の報告は心苦くて出來ません以上述べましたやうな次第で農家の實狀に即して今少し期日をおくらし、正確を期しうるやう御臨席の課長殿にお願ひいたします。

この時、川崎課長は新治の前川君、志筑の市川君にお答へするとて自席に起ち課長 栗の調査は石より貫で出してはどうかといふ前川さんの御説は非常に結構な事で、縣も同感でありまして先般關東一府六縣の統計事務協議會にも只今の栗を貫に改めることゝ更に進んで栗として別箇の調査をするといふ案を本縣から提出しました處、農林省から出席された統計官も同意を表され、是等様式の改正については其の他にもあることだから、この表のみを先きに改める事は出來ぬが、早晚全般的に改正する時が來るでせうから、その時に考慮しようとの答辯がありました、次に

志筑の市川さんの御意見ですが、米の實收についてはさうしたお話は餘り聞いていませんが、麥については他にも

同様のことを申され、七月十五日の期限を七月一杯に延ばして貰いたいといふ希望も出てをります、統計課長會議でも度々この改正意見が出まして東北地方と同様九月迄といふ要望もあつたりして一つの懸案になつてをります、また縣限りで七月三十日迄にといふ意見もあり之も研究はしてをりますが、縣では各町村から報告を受けて後農林省への報告迄に要する期間を四十日とみてをります、處が八月末日になつても容易に出て來ぬ町村もあるやうな始末で、若し是等の町村が怠りなく運んでくれさへすれば縣限りで七月三十日迄延ばすといふことも強ち不可能ではないと考へられます、この事につきましては更に一段と研究しまして一ヶ月の期間で十分に纏まりがつく見透しがつけば縣限りで延ばすことにするかも知れません。

知れませんが、と懇ろに答辯して次の

### 三村 荻沼茂之助君 調査員

とかはる、君は多年味ひ來つた苦い經驗をボツリ／＼腹の中からしほり出すやうに、農人の多忙なる一日を語り、その忙しい間の寸隙を利用して夜の目も寝ず泣き泣きとして働く統計調査員の至難な状態をくりひろげ、斯く迄あたまを使ひ、斯く迄努力を用ひて國家的事業に携つてゐるにも拘はらず、尙ほ且つ之れを見るの明なく統計調査員なんて一体何をしてゐるか位に疑惑の的となつてゐるやうな向もあり心外である、今日のかうした協議會の如きものを時々開かれて村の當局も有志もよく理解するやう啓蒙の資に供せられたいと述べる、次いで

### 田余村 小沼 淳一君 調査員

殿しんがりを承つてニコ／＼と素朴な姿を壇上

に運び

私は生來横着者です、毎日毎度主任から叱られ通しであつたが、奮起一番どうやら眞面目にやれるやうになつた心境の變化についてお話ししたい。

と冒頭して調査員のために氣を吐いた、論旨堂々、ゼスチャーもよく、慥かにこの日の眞打ちたるの實録をみせた

小沼 私は貧乏である、私は横着であつた、何時も家業に追はれてゐるので統計の仕事が悉く面倒な厄介なものに考へられてならなかつたのです、處へ一昨年、あの米穀統制法が實施されると共に米の生産統計調査が非常に綿密になりました、さなくともあき／＼してゐたのに之れ以上六ヶしくなつてはトても動まらない、やめよう、今度こそ断然やめよう、考へました、幾度か考へさせられました……がその時、私は又他の一方に考へ及んだのです、私達調査員が調査算出した數字が米價公定の上の一つの基準とさへなつて米價低

落に悩む世の農民のための大きな政策の擁護、さうした氣分も手傳つて、我々の統計をたゞ面倒だ、厄介だと片つけようとしては第一國に對して相濟まぬ、この上は一層眞面目に眞剣に調査を行つて確實な數字をあけて見ようといふ氣持ちがむら／＼と湧き起つたのです、元より淺學非才の身でありまして、完全は望んでも容易に得られるものではありませんが、兎に角我々の努力の結晶が基礎となつて縣としての計數が現はれ、それが又全國の集計となつて米實收高七千萬石突破といふやうな數字が發表されたのです、新聞紙によつてこの數字を見ました時、あの大きな數字の中にも我々の努力の幾分か含まれてゐるのだと思ふと言ひ知れぬ喜びと興味とを感ぜずにはをられませんでした

と、さも嬉しげに誇らしげに、君はニコ／＼と相好を崩して語を繼いだ  
しかもその數字によつて年度における

需給状態が明瞭となり、過剰米は政府の買上げによつて、生産者側の厄年とも言はれたまた豊年饑饉とも謳はれたその年も事なきを得て、昨年はぞの正反對に消費者側が厄難の年となつたのですが、我等が統計の示す數字によつて政府の工作宜しきを得、生産者も消費者も共々救はれるといふ結果になつたのであります、是れ即ち統計が基礎となつて善き政治が行はれたといふことを現實に證據立てたものといふも過言ではありますまい、これは米に關しての一例ですが一つの家にしても一つの國にしても良く治めるには、その經濟乃至生活を支配する産業の状態即ち生産基本とか生産數量とか或ひは消費の状況とかを詳しく知つて善處するの

なければなりません、これが爲政者としても、一家を守る個人としても極めて必要な事、今更ながら私共調査員の職責の重大であり、及ぼす處の影響の廣汎であることを痛感いたしました

私は過去の自分を省み慚愧に堪へない次第であります

説き去り説き來りて感慨にたへざるものゝ如く、ちつと聴衆に目を据ゑて暫し默然たるものあつたが、更に論旨を進め靜かに考へてみますると、統計の仕事は手近な自分の生活にも色々の興味を感じ、また益する處まことに多いと思ひます、人や／＼もすれば遠大なる理想を追つて世界の情勢に興がつたり、中央政界の雲行など談じて博識振るのを見受けますが、斯ういふ人達が自分の住む村、或ひは字についてどれだけの注意と關心とを持つてをりませうか、我住む村の戸數が何戸、田畑山林がいくら、他村の比較はどうか、生産物の状態は如何に、恐らくは何にも知らずにゐるのではありますまいか、斯く詮じ詰めますと我々調査員の仕事は、左様な人々にとつての自己反省の資料、郷土愛の原動力ともなつて有形に無形に世を益する事まことに多大なもの

あると信するのであります。以上は私の心境の變化を促した感激の一端を申上げたに過ぎませんが、光陰は矢の如く沃野萬頃、黄金の波寄する收穫の秋も遠くはありませぬ、お互ひに健康に、この夏を過して重大な職責のために、眞面目に努力致さうではありませぬか

と有益な體驗を語り降壇した、かくてそれ／＼多大の感銘を興へて調査員の發表を終り

川崎課長 統計事務に關する斯うした催

しは此の部會では昨年と今回で二回ありましたが、御意見やら御希望やら承りますと諸君の御熱心が窺はれ、眞剣な叫びとして拜聴出来るのであります、熱心な努力がありませんければ今日この壇上に決してお話など出来るものではありませぬ、諸君が眉宇の間に時代目醒めて隣保扶助の實をあげ共同一致して一層正確なる材料を提供しようといふ氣魄が漲つてゐる、心から喜びを感じる次第であります、更に御精進を續けられますやう切望してや

まぬのであります、尚ほ本日のこの貴い御意見——御希望は『茨城統計』九月號に掲載されまして縣下四千の統計關係者をはしめ中央の各官省、全國各府縣にも配付されますこの叫びがかうして廣く多方面の方々に讀んでいただけますことは御同様に讀んでいただくに堪へない次第であります。拍手裏に課長が降壇すると、川島町長もまた閉會の挨拶をかねて一同の奮闘努力を望み記念撮影して一時散會した。

生れる子は男か女か

北浦沿岸のある村の婆さんは出生児が男か女かを鑑定するに頗る妙を得、實に百發百中との評判で、みごもる女たちで門前市を爲してゐるさうだが其秘傳はかうである

一、母の年齢が偶數で生れる児は、二年兒(前年に亘る)の場合は女兒、一年兒なら男兒  
一、母の年齢が奇數にて二年兒の場合  
は男兒、一年兒なら女兒

一、母が二月節分前の生れならば年を一ツ加へて計算、夫婦の年齢を九で割り、割り切れる場合は女兒  
然らざれば男子  
一ツ試して見ては如何ですか

統計模範町村を訪ねて (4)

傳説の砂沼を中心に

メキ／＼伸びる下妻町

軽々に見のがせぬ人口の増殖

一 記者

私共が中學へ通ひ始めた頃、即ち下妻中學が建つたばかりの頃、あのあたり一帯は雑木林の連続で、狸どころか、白晝追剣が出た話を私たちはしば／＼聞かされたものだ。

昔おもへば 下妻町は 狸の住家  
ほんほこほん ちゃんほこほん  
十萬石のお城下

今ぢや名どころ町どころ  
——横瀬夜雨作 下妻小唄の一齣——

中學校のグラウンド續きのお稻荷さんの境内に、呪ひの祈り釘が刺されてゐたのを、私たちは學校の晝休みに發見して大騒ぎしたことなともあつた。城主多賀谷氏の守護神といはれて靈驗今にいやちこに、花柳界の人々など朝に夕べに參詣して、昔ながらの鬱蒼たる社の森は艶めかしく彩られてゐる。



—砂沼の夏—